

日本中世英語英文学会

第31回 西支部例会

日時：2015年6月13日（土） 13：00～17：40

会場：福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1

電話 (092) 661-2411 (代)

アクセスマップ：<http://www.fwu.ac.jp/about/access.html>

キャンパス案内：<http://www.fwu.ac.jp/about/>

受付	地域連携センター1階「エントランスホール」
総会	セミナー室 2A・B
研究発表	セミナー室 2A・B
特別講演	セミナー室 2A・B
発表者等控室	セミナー室 2C
会員控室・懇親会	カフェラウンジ Nan の木

日本中世英語英文学会西支部事務局

〒739-0046 東広島市鏡山 1-2-3

広島大学大学院文学研究科 地村彰之研究室内

Tel: 082-424-6678 (研究室直通)

E-mail: ajimura@hiroshima-u.ac.jp

第 31 回西支部例会プログラム

I 受付 (12:30~13:00) (地域連携センター 1 階「エントランスホール」)

II 開会式および西支部総会 (13:00~13:30) (セミナー室 2A・B)

司会 大野英志 (倉敷芸術科学大学准教授)

日本中世英語英文学会会長挨拶

松田隆美 (慶應義塾大学教授)

開催校挨拶

向井 毅 (福岡女子大学国際文理学部長)

日本中世英語英文学会事務局報告

徳永聡子 (慶應義塾大学准教授)

西支部事務局報告

地村彰之 (広島大学教授)

会計報告

和田葉子 (関西大学教授)

会計監査報告

中尾佳行 (広島大学教授)

会場案内

村長祥子 (福岡女子大学准教授)

III 研究発表 (13:30~16:15) (セミナー室 2A・B)

1. *Ancrene Wisse* 以前の *conscience* 概念について: *Catholic Homilies I* における
その名詞表現 (13:30~14:00)

井野崎千代子 (大阪産業大学他、非常勤講師)

司会 吉川史子 (広島修道大学教授)

2. ドラゴンと宝剣西東一時代の大変革におけるその意味— (14:00~14:30)

多ヶ谷有子 (関東学院大学教授)

司会 中尾佳行(広島大学教授)

3. オーストラリアのチャーサー (14:30~15:00)

海老久人 (神戸女子大学教授)

司会 浅香佳子(関西大学非常勤講師)

<休憩>

4. *The Vision of Tundale* における至高天についての一考察 (15:15~15:45)

壬生正博 (福岡歯科大学教授)

司会 田口まゆみ (大阪産業大学教授)

5. パストン家書簡集の接続詞 *that* (15:45~16:15)

平山直樹(尾道市立大学准教授)

司会 西村秀夫(三重大大学教授)

<休憩>

- IV 特別講演 (16:30~17:30) (セミナー室 2A・B)
ヨーロッパの魔女伝説と史実の魔女裁判
関西大学名誉教授 浜本隆志
司会 和田葉子(関西大学教授)
- V 閉会の辞 (17:30~17:40) (セミナー室 2A・B) 壬生正博 (福岡歯科大学教授)
- VI 懇親会 (17:45~19:45) (カフェラウンジ Nan の木)

会費 4,000 円

◇会員控室・懇親会は「カフェラウンジ Nan の木」です。

◇受付は地域連携センター1階「エントランスホール」です。

◇総会、研究発表は地域連携センター2階「セミナー室2A・B」で行われます。

◇発表者等控室は地域連携センター2階「セミナー室2C」にあります。

研究発表1 *Ancrene Wisse* 以前の conscience 概念について：
Catholic Homilies I におけるその名詞表現

井野崎千代子（大阪産業大学他、非常勤講師）

司会 吉川史子（広島修道大学教授）

Ancrene Wisse (AW), Corpus MS 83a に見られる conscience が英語 conscience の初出 (MED) とされ、'pat is, ure inwit' とグロスされている。inwit が conscience の意味で用いられるのもこの箇所が最初とされる。Corpus 写本における inwit と呼ばれる conscience 概念は、時間的に遡ると考えられる Cleopatra 写本では、Scribe A によって、'poncg' 'ponc' 'inwið' 'wit' 'inwit' などの複数の語による表記が見られる。それらは Scribe B によって全体的に inwit の方向へ修正されているが、上記「初出」第5章の場面は 'p is ure ponc' のままであるし、他にも未修正の箇所がある。Dobson はこの Scribe B の inwit への修正傾向を「誤りを正す」適切なものとする。

これについて、厳密な意味での conscience の初出は Cleopatra 写本 f.4.17 の marginal annotation にあるものではないかということと、Scribe B による修正箇所は、修正前の文章でもその意味は汲めたのではないかという提起を 2013 全国大会で本発表者が行った。Millett の全写本照合による校訂本により inwit 以外の語彙の使用が他写本にも認められることが鮮明となったため、この Scribe B の修正の意味が他にある可能性は高くなった。しかし Millett もこの修正については exemplar が別な語を過ちとして含んでいた可能性があったと言述べるにとどまっている。

conscience 概念が発展しつつあった当時の背景を念頭に置き、AW (13 世紀前半) 以前の同概念の vernacular における表現を調べ、先の Scribe B の inwit への修正の意味考察の手掛かりとしたい。直接的参考文献は殆ど見られないとされる本作品の主な源流の一つである homily や sermon の流れを遡るべく、今回は *Catholic Homilies I* を対象とし、AW では conscience という名詞の登場と、'inwit' という名詞へのグロスに焦点を当て、conscience 概念に関する名詞の表記について調べた結果を報告する。

研究発表2 ドラゴンと宝剣西東一時代の大変革におけるその意味—

多ヶ谷有子（関東学院大学教授）

司会 中尾佳行（広島大学教授）

ドラゴン伝承は世界各地にあり、それが象徴するものは多様である。概ね、キリスト教世界ではドラゴンは悪魔のシンボルであるが、日本も含めそれ以外の世界では神や荒ぶる力である。数多あるドラゴン伝承のなかに、宝剣とドラゴンが関わる、ひいては大きな時

代の変革を象徴するモチーフがある。本発表では、ドラゴンや宝剣がどのように時代の変革に関わり、それは文学史的視点から見ればいかなる意味を持つかについて検討したい。

例えば『ブリタニア列王伝』である。マーリンがブリトンを表す赤龍と征服者を表す白龍の謎を解き明かすもので、これはドラゴンの戦いの結果が民族の行方を決定することを象徴するエピソードである。ブリトン人はサクソン人の侵略に苦しんでいたが、アーサーに率いられてサクソン人と戦い、アーサー伝説が生れる。赤龍はアーサーの象徴とも言える。アーサーの王位は宝剣エクスカリバーによって象徴される。

日本にも並べて考えられる伝承がある。記紀に語られる「スサノオのヤマタノオロチ退治」と「平家滅亡と宝剣喪失」を語るエピソードである。平家滅亡は政権が貴族から武士に移った大きな時代の変革を物語る。平家は源平の戦いで滅亡するが、このとき三種の神器のうち宝剣が失われる。宝剣喪失について「剣の巻」、「平家物語」諸本は様々の解釈を示す。整理すると、①宝剣は草薙剣でスサノオが退治したヤマタノオロチのものという解釈で、龍王（ヤマタノオロチ）は何度も草薙剣を奪回しようとしたが叶わず、安徳天皇に生まれ変わって奪回を果たした。②宝剣は草薙剣そのものではなく、そのものは熱田神宮に奉納され、靈験の変わらぬ模剣が失われた。

当時、政変を目の当たりにした慈円は、宝剣喪失について『愚管抄』で、宝剣（レガリア）は天皇の守りであったが武家の政権となり、武士が剣の代わりに天皇を守る世になり宝剣は喪失した、これは道理の現れであると言った。その解釈と分析は興味深い。彼は、天皇中心の政権が武家に奪われるというありうべからざることに直面し、受け入れるしかない、独特の歴史観で合理化する。一方彼は龍王がヤマタノオロチであるとも、宝剣が草薙剣とも言わない。彼のいう龍王は仏教観の龍王である。慈円は歴史の大きな変わり目に「得体の知れない大きな力」が介入し、現実の歴史を動かしたと考えたであろう。この「歴史を動かす得体の知れない大きな力」を、彼は龍王という架空の聖獣に形象化した。つまり「道理」の現れとしての歴史を実現する現実の力をひっくり返して「龍王」と表現し、この「龍王」が安徳天皇の入水や宝剣の水没をもたらしたと考えた。アーサー伝説における龍が象徴する歴史の予言と対応する。

東京帝大哲学教授の紀平正美によれば、慈円は「ヘーゲルの先駆者」である。丸山真男によればヘーゲルの理性は単数であり、慈円では「諸道理」で複数である。慈円の現実には古代から中世への **Reformation** であったが、歴史は道理の顕現という解釈は古代中世の「迷信」的理解から、近現代的（理性的・合理的）理解にいたっており、彼の近代的分析には注目すべきであろう。

研究発表3 オーストラリアのチョーサー

海老久人（神戸女子大学教授）

司会 浅香佳子(関西大学非常勤講師)

昨年オーストラリアのシドニー、ニュー・サウスウェールズ美術館とメルボルン、国立ヴィクトリア美術館でオーストラリアのチョーサーに関する調査をする機会を得た。現在オーストラリアに所蔵されているチョーサーに関係する主要美術品は以下の三点である。



1. *Chaucer at the Court of Edward III* (Art Gallery of New South Wales, Sydney, Australia) (Other Title: *Geoffrey Chaucer reading the "Legend of Custance" to Edward III and His Court, at the Palace of Sheen, on the Anniversary of the Black Prince's Forty-fifth Birthday*) (詳細データは発表時に公表)

2. *The Chaucer Vase* (National Gallery of Victoria, Melbourne, Australia):

Date: 1882

3. *Chaucer's Canterbury Pilgrims* (National Gallery of Victoria, Melbourne, Australia):

Date: 1810

撮影筆者

いずれも 19 世紀に制作された作品で、そのうち、「2.The Chaucer Vase」は、ロンドン、ランベスに窯を備えていた陶磁器メーカーDoulton & Co. (現在の Royal Doulton) 社が 1882 年に制作した大型の壺で、チョーサーの『善女伝』に描かれる 9 人の女性たちを精緻に描いた壺である。『善女伝』をモチーフとするこの種の美術品は他に作例がない。なお、20 世紀に入ってドルトン社は Chaucer's 'Canterbury Pilgrims'シリーズとして陶器の水差しや皿を発売している。もう一点、ウィリアム・ブレイクのエッチング「3.Chaucer's Canterbury Pilgrims」は、同一の原版を基に刷られたものが、英米を含め多数存在している。

今回の発表では、上記 1.のニュー・サウスウェールズ美術館所蔵の Ford Madox Brown の作品を取り上げる。現代の私たちがチョーサーの作品世界を理解するのに多くの手がかりを与えてくれる大作「Chaucer at the Court of Edward III」、別名「Geoffrey Chaucer reading the "Legend of Custance" to Edward III and His Court, at the Palace of Sheen, on the Anniversary of the Black Prince's Forty-fifth Birthday」という作品世界とチョーサーの関係を論じる。

この作品が提示する視点は、(1) 19 世紀の愛国主義と medievalism、(2) 歴史性、そして (3) 繰り返される同じ主題と多くの下絵、あるいは習作の意味、以上の三つである。

(1) は画家ブラウン自身にインスピレーションを与えた James Mackintosh の英国史(原

題：History of England, 1850) に記述されるイングランド海戦史上最初の勝利とされる、フランドル（現ベルギー）のスロイス沖の海戦（1340年6月22日にフランス海軍との戦い）勝利への誇りと母語「英語」に果たしてくれたチョーサーへのオマージュを指す。(2)はこの絵の世界がロンドン西部、シーン（現リッチモンド）に構えられたエドワード三世の宮廷で、彼の息子で長男エドワード黒太子45歳の誕生日の祝宴と設定されている。ブラウンの絵の構図はおのずと15世紀の有名な写本の扉絵“Chaucer reciting *Troilus and Criseyde*”(MS61, [Corpus Christi College, Cambridge](#))を連想させるだろう。(3)この絵には同じタイトル、もしくは主題で他にも、一回り小さい小型版油絵一枚（テート美術館所蔵）と油絵一枚（オクスフォード、アシュモール博物館所蔵）、それと水彩画一枚（バーミンガム博物館・美術館所蔵）が存在し、この絵に描きこまれた人物一人一人にブラウンは役割、もしくは意味を持たせている。

この発表では、ブラウンの絵が示すチョーサーの世界を三つ視点から眺めてみたい。



MS61. fr. Corpus Christi College,
Cambridge

研究発表4 *The Vision of Tundale* における至高天についての一考察

壬生正博（福岡歯科大学教授）

司会 田口まゆみ（大阪産業大学教授）

本発表は、異界（the other world）研究の一環として、中世西欧の夢幻視物語（dream visions）の代表的作品 *The Vision of Tundale* —中英語翻訳版（15世紀）を用いる—を取り上げ、神がいる聖所、即ち、至高天（empyrean）について聖書との関連性を念頭に置き考察を試みる。

創世記によれば、神は言葉によって天地を創造した（Gen 1:1-2:4）。しかし、神はどこにいるのか、その存在場所は不明である。一方、預言書のイザヤ書（Isa 6:1-7）、エゼキエル書（Ezek 1:26-28）等、あるいは黙示文書であるダニエル書（Dan 7:9-10）には、神の聖所が記されている。その聖域はいずれも人間世界から遠く離れた遙か彼方の天空に位置していると推察される。旧約偽典の黙示文書である第1、第2エノク書等においては、天界の描写に更に具体性が増し、天の階層が語られている。そして新約聖書の文書に目を転ずれば、例えば、コリント人への第二の手紙では、聖徒パウロは第三天まで昇った（2Cor 12:1-4）

というようにエノク書に類似する複数の天の記述が見られる。この第三天は恐らく至高天のことであろう。また新約における代表的な黙示文書であるヨハネ黙示録では、審判後に新しいエルサレムが天から降りてきて、善なる霊達は神の聖域内に住むことになる (Rev 21:10-27)。

夢幻視物語は、6世紀後半に文学ジャンルとして確立するが、記述の性質は上記の聖書思想を継承している。だが、夢幻視物語では、預言書や黙示文書にみられる民族や国家レベルの救済や終末論等は希薄となり、個人の救済が主題となっている。夢幻視物語の諸作品の筋立ては概ね共通しており、主人公たちは夢や幻視を通じて地獄、煉獄、天界といった異界の旅を語り、天界は神のいる聖域として扱われている。夢幻視物語の頂点に立つのが Dante の傑作 *La Divina Commedia* である。

The Vision of Tundale では、至高天は第七天に位置づけられており、主人公タンダールは天使に導かれて宇宙の最果てにあるこの第七天へ向かう。発表ではタンダールが最終的に辿り着いた至高天について、天動説を基軸とする大宇宙 (macrocosm)、そして人間という小宇宙 (microcosm) の観点から作品解釈の可能性を探りたい。ひとつの解釈として考えられるのは、至高天を大宇宙の最上層として見た場合、タンダールは地球を離れ、宇宙の彼方にある神の聖域まで動的な旅をしたことになるが、小宇宙の観点からすれば、タンダールの旅は人間に内在する神に向かう旅、即ち、神を観想する静的な旅ではないか、という点である。

研究発表 5 パストン家書簡集の接続詞 *that*

平山直樹(尾道市立大学准教授)

司会 西村秀夫(三重大学教授)

15世紀英語で書かれた代表的な書簡集である『パストン家書簡集』においては、出来事の報告や書き手自身の考えなどを示す場合、接続詞 *that* が多く使われている。それらの多くは、*he said* や *I think* などの後に続く補文を導く *that* である。本書簡集においては、*that* 使用のバリエーションの1つとして、次の例文のように複数の補文が並列される場合がある。

[T]he balyffe told hym ***that*** he sent a letter to the Lord Molyns, and ***that*** the Lord Molyns had sent hym a-nothere letter. (No. 130, ll. 5-6)

本発表では、当該書簡集において従来さほど注意されてこなかった、このような *that* 節

の並列をはじめ、節を導く **that** がどのように使われているのかを明らかにしたい。具体的には、①上の例文のように **that** 節が並列されるのはどのような場合か、②現代英語では使われなくなった副詞節を導く **if** や **when** の後の **that** は、どの程度使われているか、③**I think** などの上位節に続く **that** に導かれる補文は、同じ文内で使われる **if** 節や **when** 節などの副詞節とどのように関係しているか、④**I think** などの後で **that** が省かれる場合にはどのような傾向性があるか、に注目する。

補文を導く **that** を含むそれぞれの文を分析する際、文の構造を 3 つに分ける。まず、補文内部の主語、動詞、副詞節などといった命題内容に関する条件、次に、補文を導く節の主語、動詞、副詞節などといった上位の節に関する条件、そして、手紙のジャンルや書き手と受け手との社会的関係といった語用論的条件である。

上の①から④の疑問点を解明することにより、本書簡集における接続詞 **that** の使用の傾向を明らかにすることができる。また、本発表で得られる結果は、15 世紀の英語において、どのように接続詞 **that** が使用されていたか、その一端を示すものとなる。

特別講演

ヨーロッパの魔女伝説と史実の魔女裁判

関西大学名誉教授 浜本隆志
司会 和田葉子(関西大学教授)

浜本隆志氏のプロフィール：1944 年生まれ、専攻はヨーロッパ文化論、比較文化論。
主な著作は次の通り。

『ドイツ・ジャコバン派』(平凡社)、『鍵穴から見たヨーロッパ』(中公新書)、
『ねむり姫の謎』(講談社現代新書)、『魔女とカルトのドイツ史』(講談社現代新書)、
『謎解き アクセサリーが消えた日本史』(光文社新書)、『モノが語るドイツ精神』
(新潮選書)、『拷問と処刑の西洋史』(新潮選書)、『窓の思想史』(筑摩選書)、
『紋章が語るヨーロッパ史』(白水 U ブックス)、『指輪の文化史』(白水 U ブックス)、
『海賊党の思想』(白水社)、『バレンタインデーの秘密：愛の宗教文化史』(平凡社新書) 等。

魔女狩りは、魔女幻想から生まれた一種の集団妄想迫害であるが、中世ではなく近代初期の 16-17 世紀に多発した。ヨーロッパにおける犠牲者数は、確証できる最小数でも 5-6 万人という統計数字がある。しかし実数は 10 数万人と見込まれ、そのうち平均すると、およそ 75 パーセントが女性であったので、ジェンダーの問題と深くかかわる裁判であった

といえる。

国別や地域別でいえば、ドイツ、ポーランド、スイス、フランスの山岳地帯や農村部が魔女狩りの中心地であった。というのも、これらの地域ではすべての人びとが、アニミズム的な魔女の存在を本気で信じていたことと、農民たちが天候不順や各種災害を魔女が引き起こしたと解釈したからである。魔女のターゲットにされた者は、森のなかに住む老婆や仲間に嫌われた女性、他の地域から嫁入りしてきた女性、薬草などの知識のある「賢い女性」たちであった。

その後、犠牲者は小都市へ芋づる式に拡大していったが、なかでも深刻なものは、子どもが実の母親や祖母を魔女として告発するケースもかなりあったことである。これは現在からみると反抗期の現象と解釈できるが、それだけではなく、いかに魔女狩りが当時の子どもたちにも大きな心の傷を与えていたかを物語る。

今回の報告では、魔女伝説や魔女幻想が魔女狩りとどのようにかかわっていたかを考察する。魔女伝説にもとづく話は、グリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』が最も有名であるが、さらにそれ以外に、魔女飛行伝説、サバトでの集会、「天候魔女」、「災害魔女」という災難を引き起こす魔女伝説などが知られている。このような伝説上の魔女を盲信する人びとによって、無実の女性たちが魔女として逮捕され、裁判にかけられた。多くの被疑者は具体的には、魔女の塔に収監、魔女の検査、尋問、拷問、公開処刑というプロセスをたどるが、これらの集団妄想と史実の魔女裁判の全体像を、図像をまじえながら明らかにしたい。

福岡女子大学キャンパスマップ及び交通アクセス

1. 学内案内図

当日使用する2つの建物(地域連携センターと図書館棟)が載っています。

通用門からお入り下さい。

・地域連携センター

1階「エントランスホール」：受付

2階「セミナー室2A・B」：総会等

2階「セミナー室2C」：発表者等控室

・図書館棟1階「カフェラウンジ Nan の木」：会員控室・懇親会

2. 地域連携センター内部

3. 博多・天神からの交通案内

4. 駅・バス停からの地図

日本中世英語英文学会西支部会則

第1条（名称）本会は日本中世英語英文学会西支部（The Western Division of the Japan Society for Medieval English Studies）と称する。

第2条（目的）本会は日本中世英語英文学会の支部機関として同会と連携しつつ、支部会員の研究の促進と交流のために寄与することを目的とする。

第3条（事業）本会は第2条に定めた目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究発表会および支部総会の開催（年1回）
2. 講演会の主催および共催
3. 各種情報の連絡・通知
4. その他必要と認められた事業

上記の事業を行うために支部会費を徴収する。会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。

第4条（会員）本会は第2条に定める目的に賛同し、会費を納入するものを会員とする。

第5条（役員）

1. 本会に次の役員を置く。

支部長 1名 運営委員 5名 監査委員 1名

支部長および監査委員の任期は2年、運営委員の任期は3年とし、原則として再任は認めない。ただし、1期以上の間をおいて再任され得るものとする。

2. 役員の仕事

- (イ) 支部長は本会を代表し会務を統括する。
- (ロ) 支部長は運営委員会を招集してこれを主宰する。
- (ハ) 運営委員は本会を運営する。
- (ニ) 監査委員は本会の財産および事業の執行状況を監査する。

3. 役員の選出

- (イ) 支部長は運営委員の推薦（互選を含む）により支部総会にて承認を受けるものとする。
- (ロ) 任期満了に伴う運営委員の補充は運営委員会の推薦によるものとする。
- (ハ) 監査委員は運営委員の推薦により総会にて承認を受けるものとする。
- (ニ) 支部長が運営委員の中から選ばれた場合はその運営委員の補充を行うものとする。

第6条（会則の改正） 本会則の変更は運営委員会が発議し、支部総会で決定する。

付則 本支部会則は2001年6月17日から施行する。

細則

- (1) 第5条1項に定める運営委員の構成にあたっては分野および地域性を考慮する。
- (2) 第5条1項に定める運営委員は半数改選（2名もしくは3名）を原則とする。
- (3) 在外研究その他の事由で支部長、運営委員、監査委員に欠員が生じた場合は、第5条第3項の規定に準じて補充する。
- (4) 第4条に定める会費は年額2,000円とする。

修正細則：一般2,000円の他に、非常勤講師・退職者・学生・大学院生1,000円、70歳以上で一般会員として20年以上経過した方の終身会費10,000円の制度を設ける。

附則 本細則は2001年6月17日から、本修正細則は2009年6月14日から施行する。

2015年度西支部事務局

支部長：地村彰之

運営委員：大沼由布、西村政人、平山直樹、壬生正博、吉川史子（五十音順）

監査委員：大野英志

◎ 日本中世英語英文学会西支部の振込用口座番号は以下の通りです。会費の納入などにご利用ください。

記号 01320-7

番号 90883

なまえ ニホンチュウセイエイゴエイブンガツカイニシシブ

ところ 郵便番号 730-0046 広島県東広島市鏡山1丁目2-3

広島大学大学院文学研究科地村彰之研究室内

支部長 地村彰之